

平成時代の津市のまちづくり

合併した津市は、新しい一つの都市として発展していくためのまちづくりを進め、**3つの層が積み重なった強固な土台**を築き上げました。

第1の層は、新斎場「いつくしみの杜」や産業・スポーツセンターの完成など、**合併時に約束されていたこと**を一つ一つ実現してきたこと、第2の層は、応急クリニックや家庭医療クリニックの開設、県内初の義務教育学校「みさとの丘学園」の開校など、**状況の変化**に応じてあるべき姿を追求してきたこと、そして、第3の層は、中学校普通教室へのエアコン設置や高齢者外出支援事業など、**新しい市政展開に先駆けて**一歩踏み出した事業を進めてきたことです。



産業・スポーツセンター

この土台の上に、昨年は、新しい総合計画の一丁目一番地に掲げた子どものための施策を中心に、市民の日々の生活や心の豊かさを高めることに重点を置いた「暮らしづくり」の施策を着実に進めてきました。

新しい時代を見つめ、語り、切り拓く

そして迎えた2019年。**新しい元号が始まる年**であり、過去・現在・未来という時間軸でいえば、**平成が過去になる年**でもあります。津市は平成18年に合併し、市民の皆さまに「合併して良かった」と思っていただけのように、これまでの13年間で新しい津市の形を作り上げました。

この間の新しい津市のまちづくりは、現在進行形で進むが故に、「合併して良かったのか」、「合併に期待したことが実現したのか」という合併への評価を常に意識する日々でもありました。そして、いよいよ時代が移り変わり、津市の合併は時代の流れとともに、後の世で振り返って評価される出来事となります。日本全体が新しい時代への期待感や前向きさを感じながら第一歩を踏み出そうとするなか、津市においても、これからの**新しい時代を見つめ、語り、切り拓いていく**という新たな思いで次の時代へと踏み出していく、その節目を迎えるわけです。

その節目において、津市が目指すところは、**総合計画に掲げた将来像「笑顔があふれ幸せに暮らせる県都津市」**として、夢や希望、明るい未来が広がるまちです。

平成31年度に取り組む主な事業

未来を担い築く子どもたちのための施策

- 一志こども園の4月開園
- 芸濃こども園の2020年4月開園に向けた園舎の新築工事



芸濃こども園のイメージ図

- 新町小学校、藤水小学校、南郊中学校、西が丘小学校、久居中学校の大規模改造工事継続



工事中の新町小学校

- 芸濃小学校普通教室の増築工事
- 小学校29校の普通教室・小中学校62校の特別教室へのエアコン設置
- 上野・大里・北立誠地区の放課後児童クラブの施設改修工事、椋本地区における2棟目施設の新設に向けた設計
- 草生・美杉地区での放課後子供教室の設置
- 津市独自の教員支援員制度の拡充
- 部活動の顧問として技術指導や大会への引率などを行う部活動指導員の増員

市民が健やかで穏やかな人生を送るための施策

- 地域包括ケアシステムの確立に向けた推進体制の強化(生活支援コーディネーターの増員)
- 胃がん検診における二重読影の導入
- 障がい者相談支援センターを基幹障がい者相談支援センターと地域障がい者相談支援センターに再編
- 全ての小中学校のAEDを屋外に移設。屋外設置が可能な他の公共施設についても順次移設



AEDを屋外移設した川口小学校